

2026年10月

初公開資料から不朽の名作まで、一挙公開！

企画展

高島屋創業 195 周年記念展

タカシマヤ クロニクル 百・華・繚・乱

第Ⅳ期：乱の時代

- 会期 : 2026年 10月10日(土) → 12月 21日(月)
第Ⅰ部 10月 10日(土) → 11月 16日(月)
第Ⅱ部 11月 21日(土) → 12月 21日(月)
- 会場 : 高島屋史料館 企画展示室 (大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館3階)
- 開館時間 : 午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 : 火・水曜日
※展示替休館: 11月17日(火)～11月20日(金)
- 入館料 : 無料

■ 開催趣旨

高島屋の歴史は、1831(天保2)年正月、初代飯田新七が京都・烏丸松原で古着木綿商「高島屋」を創業したことに始まります。高島屋は2026年、創業195周年を迎えました。高島屋史料館では、創業以来の史料や美術品、呉服、広告宣伝物など、高島屋の歴史とともに蓄積されてきた多種多様な品々を収蔵しています。本年は会期を4期に分け、収蔵品を通して、高島屋の195年をご紹介します。

日本がバブル景気に沸いた時代からその崩壊へ。20世紀の終わり、百貨店は低成長を余儀なくされました。その後も、先行きの不透明感が増し、社会が複雑化の一途をたどる現代は、まさしく「乱」の時代といえます。本展では、インターネットの普及を背景に世の中が大きく変化し、人々の価値観の多様化が進んだ平成時代から、令和の時代を生き抜く高島屋の現在、そして来たる創業200周年に向けて、高島屋グループが描く未来像までをご紹介します。

「百」「華」「繚」「乱」—各時代の高島屋をお楽しみいただければ幸いです。



■ 展示内容

※本展は会期をⅠ・Ⅱ部に分け、展示作品を一部入れ替えて構成します。

2026（令和8）年、高島屋史料館では一年を通して、高島屋の195年のあゆみをたどる企画展「タカシマヤクロニクル 百・華・繚・乱」を開催してきました。第Ⅰ期は創業から大正初期まで、第Ⅱ期は大正中期から昭和戦前期まで、第Ⅲ期は戦後復興期から昭和の終わりまでをご紹介します。

本展は、いよいよその締めくくりとなる「第Ⅳ期：乱の時代」。平成から現在、そして未来に向かう高島屋の年代記（クロニクル）をご紹介します。

第1章 『いつも、人から。』

「国の内外、天地とも平和が達成される」の意味である「平成」の時代は、元号に込められた願いとは異なり、国内外において大きな事件や自然災害が相次いだ時代でした。世界情勢が大きく変わり、国内でも社会や経済の変化に対する閉塞感が強まってきた「平成」という時代、百貨店も独自の道を模索し始めました。このような時代の変化に対応するため、1991（平成3）年、高島屋は新しい経営理念「いつも、人から。」を策定しました。



「いろはにほん」キャンペーンポスター 1990年



シンガポール高島屋 S.C.
1993年開店



訪問着 ヴェニス旅情
矢代仁 2007年
第55回上品會
【第Ⅰ部】



織物額 ベニスの月
川島織物 2012年
第60回上品會
【第Ⅰ部】

第2章 『‘変わらない’、のに、あたらしい。』

2000年代初頭、人口減少や消費の多様化を背景に、百貨店業界は激しい再編の時代を迎えました。社会が激変する中、高島屋は、2008（平成20）年3月、企業メッセージとして『‘変わらない’のに、あたらしい。』を発表。「伝統があるから、あたらしくなれる。時代に息づく心地よい価値をこれからも。」との思いを込めました。



新宿店 1996年開店



タカシマヤタイムズスクエア
オープン ポスター 1996年



飾り皿 イングリッシュローズ
マイセン社 1980年



バラの包装紙（四代目）
2007年～

高島屋創業 180 周年記念作品
森村泰昌《北野恒富・考》連作
【第Ⅰ部展示】



北野恒富・考/参
(百選会/ロマン・ド・ラ・ローゼ)
森村泰昌
2011 年



北野恒富・考/四
(百選会/小磯良平風に)
森村泰昌
2011 年

日本古来の「連歌」をヒントに
1995 年に開催した「連画」展への出品作
【第Ⅱ部展示】



われ巴里想う虹のかけ橋
中島千波
1995 年



銀幕にゆれる影絵のたたずまい
室越健美
1995 年

第3章 まちづくり

現在、高島屋グループは、百貨店やショッピングセンターなど国内・海外あわせて 20 の商業施設を展開しています。グループ総合戦略として「まちづくり」を掲げ、施設やサービスを通じて、地域に密着したコミュニティ基盤の創造と、サステナブルな地域社会の実現に取り組み、地域やそこに暮らす人々と共に成長していくことをめざしています。



上海高島屋
2012 年開店



サイゴンセンター/ホーチミン高島屋 (ベトナム)
2016 年開店



サイアム高島屋 (タイ)
2018 年開店



日本橋高島屋 S.C. 2019 年グランドオープン

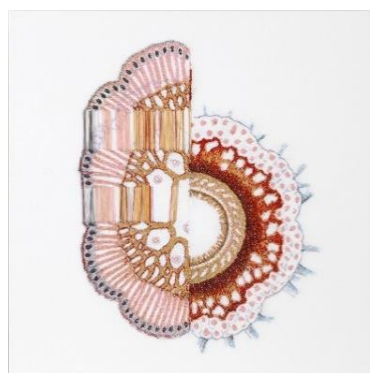


京都高島屋 S.C. 2023 年開業

ぼくたちはいつも何かとつながっていて世界は命であふれている（部分）

浅井裕介 2014 年【第Ⅰ部展示】

2014（平成 26）年 1 月に実施した東日本大震災被災地復興支援イベント「明日へのエール」。アーティスト浅井裕介氏が岩手県大槌町でワークショップを行い、未来をテーマに子どもたちと制作した巨大アート（縦 4.5×横 3.6m）を展示します（部分、第Ⅰ部）。



WARPⅡーエルンスト・ヘッケルへのオマージュ

宮田彩加 2023 年【第Ⅱ部展示】

1990（平成 2）年 2 月、公益信託タカシマヤ文化基金を設立。新鋭作家や美術文化の保存・発掘・振興に寄与する団体などへの助成を行っています。

新鋭作家に対する賞（タカシマヤ美術賞）は、1 作品への賞ではなく、その作家のこれまでの活動と将来性から選考するもので、本作は 2024 年度タカシマヤ美術賞受賞記念に制作されました。

■ イベントのご案内

※詳細は当館ホームページをご覧ください。状況により、イベントを中止する場合がございます。

①②いずれも参加無料、要申込み・抽選制です。当館ホームページよりお申込みください。

①アーティスト トーク「私と美術と高島屋」

要申込み・抽選制

■講師 森村泰昌 氏

■11 月 1 日（日）午後 1 時～午後 2 時 30 分 ■会場=多目的ルーム ■定員=20 名

②講演会「暮らしと美術と高島屋」

要申込み・抽選制

■講師 橋本善八 氏（世田谷美術館館長）

■11 月 22 日（日）午後 1 時～午後 2 時 30 分 ■会場=多目的ルーム ■定員=20 名

■ 学芸員による企画展ギャラリートーク

会期中の第 1・第 3 土曜日午後 2 時（約 30 分）※お申込み不要、開始時間までにロビーにお集まりください。

■お問合せ（株）高島屋 大阪店 企画宣伝部

広報・PR 担当 袁（えん）080-9940-9176 木村 080-9936-3746

■媒体でご紹介くださる際の表記は、電話:06-6632-9102（高島屋史料館）でお願いいたします。

以上